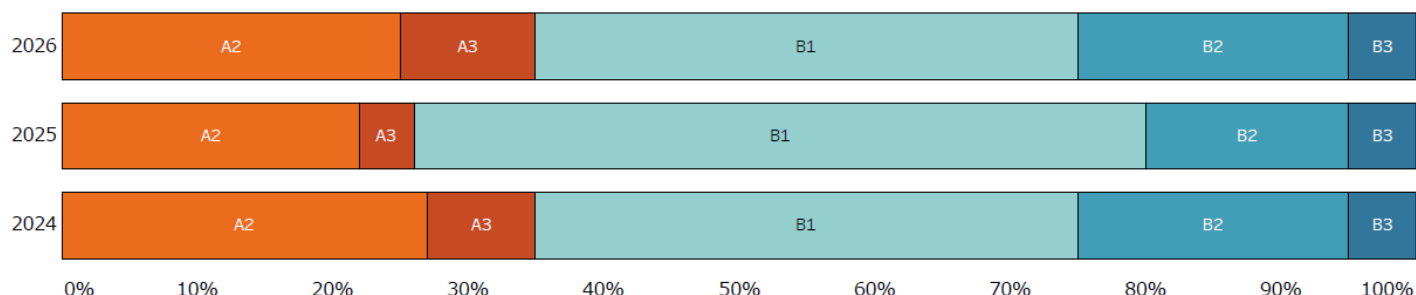


2026 年 慶應義塾中等部 算数

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。問題数、出題分野に大きな変更はなく、全体的な難度も例年通りと思います。最上位生が集まる入試となるため、高得点勝負となります。基本的な問題を確実に得点して、思考力が問われる B2 レベルの問題をどれだけ取れたかで差がつきます。基本的な問題を素早く正確に処理する力は欠かせません。



大問 1 は、例年通り計算、一行題でした。どの問題も基本的な内容です。計算ミスや問題の誤読に注意し、ていねいに処理をして確実に得点したいです。大問 2 も例年通り一行題でした。(5)平均の速さは、秒速・時速が混ざっているので計算に注意が必要です。どれも落とすことができません。確実に得点したいです。

大問 3 も例年通り図形の一行題でした。毎年の出題となるため、多くの受験生が十分に対策を積んできたと思います。(4)も例年通り回転体の表面積でした。計算ミスのないように確実に処理をしたいです。どれもテキストなどで目にしたことのある問題となるため、すべて確実に得点しておきたいです。

大問 4 は、流水算の問題でした。グラフ付きの速さ、水そうの問題は慶應中等部で頻出となります。多くの受験生が一度は目にしたことのある問題だと思います。速さの単位に注意して、確実に得点しておきたいです。

大問 5 は、数の性質を利用した規則に関する問題でした。(2)は、電球 A、B、C の最小公倍数に着目して調べるとよいでしょう。手間はかかりますが、ていねいに調べたいところです。

大問 6 は、例年通り思考力が試される調べる問題でした。円どうしが作る交点の数が最大となる場合を考えます。過去の慶應中等部で、長方形に直線を引いて分割する問題はありませんでしたが、今回は曲線図形となるため、規則が見つけづらかったかもしれません。2 個の場合は図で示されているので、3 個、4 個の場合を描いて調べます。すると、円周で囲まれた図形は、円が 1 個増えるごとに 1、3、7、13…と増えていることがわかります。つまり、2、4、6、8、10、…と、2 ずつ規則的に増加していくと予想できるため、一般化することができます。

基本的な問題が多いため、1 問のミスが大きな差を生むこととなります。大問 4 までの失点をできるだけ抑え、大問 5(2)、大問 6(2)でどれだけ時間をかけられたかで差が付いたと思います。